

宇和島市津島町岩松 重要伝統的建造物群保存地区

津島町岩松の町並み

町並みの概要

[選定年月日] 令和5年12月15日

[保存地区面積] 約10.6ヘクタール

岩松の町並みは南予地方のリアス海岸にそそぐ岩松川河口域に位置し、農村から周囲の集落の物資集散地への変容とともに町並みが形成され、江戸後期から近代にかけて、小西家などの豪商を中心として製蠶業や新田・塩田開発、酒造業等を基軸に発展した町です。江戸末期から昭和40年代にかけて建てられた町家は二階全体を座敷として接客空間を設けます。町屋に加え、土蔵や離れ、農家住宅等、限られた敷地に建てられた伝統的建造物や水路を構成する石垣等が、河川及び周囲の険しい山林と一体となって歴史的風致を良く伝えています。



岩松の豪商小西家

小西家は、初代米屋惣兵衛が宇和島藩に岩松村での酒造業を営む許可を得たことから始まります。3代目の頃には製塩・製蠶・醸造・廻船・金融など家業を広げて、分家東小西家も成立し、藩への貢献を認められ名字帯刀を許されます。幕末には新田開発及び治水を目的に岩松川の付替工事を行いました。この工事により川までが屋敷地となり、川沿いに蔵や離れが建てられました。

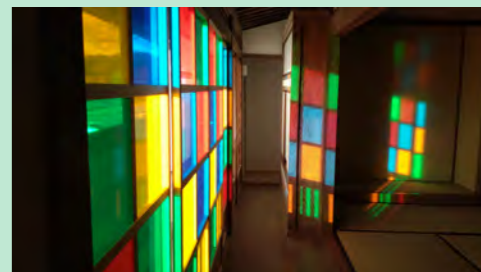
昭和の文豪「獅子文六」は東小西家に戦後疎開で滞在し、その体験をもとに小説『てんやわんや』を発表しました。

[小西本家見学
について]

見学には事前の
申込が必要です。



申込は小西本家
(色ガラスの家)
HPよりお願いします





交通 自家用車：E56 松山道津島高田 IC から国道 56 号四万十市・愛南町方面へ 6 分 (2.5km)
バス：JR 宇和島駅前①番のりば宿毛・城辺・岩松行き～岩松出張所下車 (約 30 分)

発行 宇和島市教育委員会 文化・スポーツ課
〒798-8601 宇和島市曙町 1 番地
Tel: 0895-49-7033
Email: bunka@city.uwajima.lg.jp



岩松の町並み HP

令和 7 年 2 月 28 日 第 1 版第 1 摺

岩松を愛した文豪 獅子文六

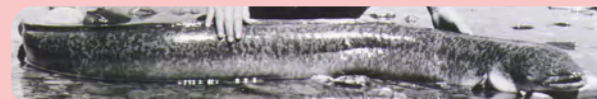
本名:岩田豊雄 (明治 26 (1893) 年～昭和 44 (1969) 年)
神奈川県横浜市出身の劇作家・小説家。戦時中海軍賛美の小説を書いたことによる公職追放を恐れ、昭和 20 年後妻シツの故郷岩松に戦後疎開。東小西家の屋敷 (大畑旅館) に寄寓し、岩松の住民と交流を深めます。昭和 22 年に東京に戻ったのち、昭和 23～24 年毎日新聞に小説「てんやわんや」を連載。翌 25 年、映画「てんやわんや」が岩松で撮影・公開。「闘牛」「牛鬼」「大うなぎ」など南予の風俗を取り入れた作劇となっています。

そのほかにも、岩松滞在中の取材を生かした小説として「娘と私」「大番」等があります。



大畑旅館で執筆する獅子文六 (東小西家所蔵写真)

岩松川の自然



岩松川は津島町御槇に端を発し、北灘湾 (宇和海) に流れ込む河川です。流域に生息する大うなぎ (オオウナギ) は県指定天然記念物となっています。オオウナギだけではなく、ニホンウナギの生息数も日本有数です。

夏場はアカテガニ・ベンケイガニなどのカニ類が、岩松の山と川を行き来し、町なかの至る所で目にすることができます。冬になるとしらうお (シロウオ) が遡上し、毎年 1 月後半に開催されるしらうお祭りでは「おどり食い」や「吸い物」「雑炊」などを楽しめます。



しらうお漁

津島町岩松 伝統的建造物群保存地区 町並み見学案内

天が森

臨江寺 享保2年(1717)開山。小西家の支援で本堂を明治43年に改築。山門は昭和14年建設。



中道 川筋付替の後に芳原溝沿いにできた裏通りです。溝の名残の石垣が各所に残ります。

大商人小西家

貞享元年(1684)に宇和島城下の商人米屋惣兵衛が岩松で酒造業をはじめました。その後、製塩・製蠟・新田開発など家業を拡大し、藩の御用商人として藩政に貢献したため、名字帯刀を許されます。分家である東小西家共々岩松の発展を支えますが、物流ルートの変更や戦後の農地解放を受けて徐々に家業を縮小していくことになります。川沿いの離れや蔵は河川付替後に川港として栄えた岩松の一時代を偲ばせます。



岩松で見られる建物の年代と種類

土居ノ奥川沿いに農家住宅が、本通りを中心に町屋や長屋造の建物を見ることができます。また、戦後になると戸建の小規模住宅が各所に建てられます。大正時代以降に建てられた洋風の建築も見られます。

	江戸	明治	大正	昭和(戦前)	昭和(戦後)
農家住宅	…	○	○	○	
町屋	○	○	○		
長屋	…	○	○	○	○
小規模独立					○
洋風建築			○	○	○

土居ノ奥 岩松が町場として発展する以前の農村集落の雰囲気が残っています。

本通り 江戸時代から街道沿いに形成された町場で、伝統的建造物がよく残っています。

代官所跡 港町の谷筋にある高石垣は幕末の絵図には宇和島藩の代官所跡と記されています。宇和島藩領は10組に分けて管理されており、旧津島町域は津島組とされ、代官が置かれました。

戎神社 岩松地区の氏神である三島神社のお祭りの時に御旅所となります。元は下本町2丁目のセンバにありましたが、大正頃に川港が移動したことで現在地に移されました。



芳原溝 今の岩松橋あたりにあった池から、岩松の南の芳原村の水田へと水を送っていた石積み水路。大正時代に蓋をされて中道の一部になっています。

岩松川の河川付替 小西家が宇和島藩に新田開発と治水を目的に届出を行い、慶応2年に岩松川を現在の流れに付替えました。



津島町岩松付近之図 (慶応2年以前) 所蔵：(公財)宇和島伊達文化保存会

思いきや伊予の涯にて初硯

獅子文六と岩松 作家獅子文六は夫人の出身地である岩松に昭和20～22年に戦後疎開してきました。東小西家(現在の大畑旅館)に逗留しており、その経験を元に昭和23～24年小説「てんやわんや」を発表、翌25年には岩松でロケが行われた映画が封切られました。

港町 港機能の下流側への移動に伴い、農村だったところの川沿いが町場となりました。



※地区内の建物はほぼ個人のお宅です。町並み見学の際には通りからの眺めを楽しみください。



①川通りの町並み



②中道の町並み



③土居ノ奥の町並み



④本通りの町並み



⑤港町の町並み